

# 「熱測定」執筆要領

## 1. 形式

- 1.1 原稿は、本会所定の原稿用紙を用いる。
- 1.2 原稿の1枚目には、題目、著者名を記し、脚注で著者の所属機関およびその所在地を記す。また題目、著者名、所属機関の公式英訳名を入れる。
- 1.3 見出し、小見出しには、章、節、項などとせず、2.1, 2.2.1のごとく Point system とする。

## 2. 用語、記号

- 2.1 原則として漢字は当用漢字、かなはひらがな、文章は新かなつかいによる口語とする。
- 2.2 量記号、単位記号、熱力学データ発表の規準などは、原則として IUPAC の勧告に従う\*。単位系も同様であり、したがって国際単位系 (SI) を原則とする\*。本誌が熱測定学会の会誌であることを考え、とくに cal でなく J, °K でなく K である点などに注意を払われない。
- 2.3 熱分析の用語、データ発表の規準などに関しては、原則として ICTA の勧告に従う\*\*。
- 2.4 文献の引用は、引用箇所<sup>1),2),3)</sup>のごとき肩書き通し番号をつけて示し、文献は本文末尾に次の例のごとく統一した書式でまとめる。和文著者名はフルネーム(姓名)を書く。
  - 1) L.Reich, S.S.Stivala, *Thermochimica Acta* 1,65 (1970)
  - 2) 山田太郎; 熱測定 1,18 (1974)
  - 3) L.G.Berg, "Differential Thermal Analysis" Vol.1, Ed. by R.C.Mackenzie, Academic Press, N.Y. (1970) p.346.
- 2.5 文中の数式は、 $(a+x)/(b+y)$ のごとく、独立した行で式のみ書く場合には次のごとく書く。

$$\frac{a+x}{b+y}$$

## 3. 図、表、写真

- 3.1 図は、原則として掲載寸法の2倍程度の大きさに、黒インクを用いて鮮明に書く。図は通常、横が7cm以下に縮尺されるので、あまり複雑とならないことが望ましい。
- 3.2 図、表、写真の挿入位置は、本文横に指定するだけとし、空欄は設けない。本文中では、図1、表1のごとく書く。
- 3.3 図や表についても2.2, 2.3の注意を守られたい。とくに図の軸表示や表の単位表示欄では、数値=物理量/単位の関係による量記号(イタリック)/単位記号(ローマン)の表示法が原則であることに留意されたい。

例:

望ましい表示	$P/\text{Pa}$	$t/h$	$\log(R/\Omega)$	$T^{-1}/\text{kK}^{-1}$
望ましくない表示	$P(\text{mmHg})$	$t, \text{hr}$	$\log R(\Omega)$	$10^3/T$

## 4. 原稿の取扱い

- 4.1 送付先は、〒113 東京都文京区湯島1-5-31 第一金森ビル内 日本熱測定学会編集委員会。
- 4.2 内容が不適切である場合や、前記執筆要領に従っていない場合は、返却、または書き直しを求められることがある。

## 5. 別刷

- 5.1 総説、講座、ノート、資料、トピックスについては、別刷20部を著者に無料で贈呈する。

\* 桜井、三井:「国際単位系について」;本誌 1,76 (1974) および関:「ふたたび熱力学データ発表の国際規準について」;本誌 1,121 (1974) 参照

\*\* 神戸:「ICATの活動(1) -- 組織と熱分析用語の提案」;本誌 2,18 (1975) および神戸:「ICTAの活動(2) -- データの報告について」;本誌 2,58 (1975) 参照